

第85回総合科学技術会議議事要旨

(日時) 平成21年10月8日(金) 15:02～15:31

(場所) 総理官邸4階大会議室

(出席者)

議長	鳩山由紀夫	内閣総理大臣
議員	平野 博文	内閣官房長官
同	菅 直人	科学技術政策担当大臣
同	原口 一博	総務大臣
同	藤井 裕久	財務大臣
同	川端 達夫	文部科学大臣
同	直嶋 正行	経済産業大臣
同	相澤 益男	元東京工業大学学長
同	本庶 佑	京都大学客員教授
同	奥村 直樹	元新日本製鐵(株)代表取締役 副社長、技術開発本部長
同	白石 隆	元政策研究大学院大学教授・副学長
同	榊原 定征	東レ株式会社 代表取締役社長
同	青木 玲子	一橋大学経済研究所教授
同	金澤 一郎	日本学術会議会長
臨時議員	郡司 彰	農林水産副大臣

(議事次第)

1. 開会

2. 議事

(1) 平成22年度の科学技術に関する予算等の資源配分の方針について

(2) 平成22年度科学技術振興調整費概算要求方針について

(配布資料)

- 資料 1-1 平成 22 年度の科学技術に関する予算等の資源配分の方針 (案) の概要
資料 1-2 平成 22 年度の科学技術に関する予算等の資源配分の方針 (案)
資料 1-3 グリーンイノベーションについて (考え方整理のたたき台) (案)
資料 2-1 平成 22 年度科学技術振興調整費概算要求方針 (案) の概要
資料 2-2 平成 22 年度科学技術振興調整費概算要求方針 (案)
資料 3 第 84 回総合科学技術会議議事録 (案)

(議事概要)

- (1) 平成 22 年度の科学技術に関する予算等の資源配分の方針について
(2) 平成 22 年度科学技術振興調整費概算要求方針について

「平成 22 年度の科学技術に関する予算等の資源配分の方針について」及び「平成 22 年度科学技術振興調整費概算要求方針について」について、資料 1-1 及び資料 1-2 に基づき、相澤議員より説明。

「グリーンイノベーションについて」について、資料 1-3 に基づき、菅議員より説明。

議題 (1) 及び議題 (2) に関する各議員の発言は以下のとおり。

【本席議員】

資料 1-2 の本文の「基本的な考え方」というところの 2 つ目のパラグラフに書いてあることであるが、科学技術というのは非常に長期的な展望でやっていくということが根幹であり、そのための基礎研究というのは非常に重要である。現在、科学技術関係予算は大体 3.5 兆円であるが、その約 3 分の 1 が大学及び基礎研究で、3 分の 2 は独法を含めたどちらかというと出口、課題解決型のプロジェクト研究になっている。私はもう少し基礎研究を増やした方がいいのではないかと考えている。

ここで書いてあることは、今回、グリーンイノベーションや鳩山総理の考えを推進するにあたって、課題解決型のさまざまなプロジェクトを精査し、その中で内閣の方針に沿ったものを重点化するという趣旨である。したがって、基礎研究、例えば今たかだか 2,000 億しかない科学研究費補助金等は、私は倍にしてもいいと思っている。ただ、財務大臣も文科

大臣もおられますので、そういうところをカットしてここに持ってくるというのではないということだけはぜひ強調させていただきたい。

【榊原議員】

先日、総理が国連で25%、90年対比と、もちろん前提つきで演説されたわけだが、我々産業界としては厳粛に受け止めている。非常に高いターゲットだという認識は持っているが、何としてもこれに近づけるように努力しなければならないに思っている。

今度のCOP15で最終的にどういう数字になるにせよ、日本としては25%を想定して、すべての手段を導入して温暖化ガス削減に向けての体制整備をしなければいけない。その中核となるのが先ほど説明のあったグリーンイノベーションであろうかと。

このグリーンイノベーションの中核課題として、ぜひ革新的な技術開発を最優先で、産官学のオールジャパンの体制で、相当な、1,000億円単位の大規模な研究開発資金を投入して、大至急2020年に間に合うようにやらなければならないと考えている。

ちょっと話が逸れるが、たまたま昨日の毎日新聞のホームページを見て、前の政権時代に決めた2,700億円の最先端研究開発支援プログラムを2,000億円に減額し、その2,000億円を1,000億円と1,000億円に分割をして、1,000億円は元々の30人に配るが、残りの1,000億円は若手ないしは女性研究者の支援に振り向けるという記事、この記事の真偽は別として、私は女性研究者、若手研究者の支援は非常に大事であることは同意しているが、今現在の危急存亡のときに、なぜ決められた予算を削って若手研究者なのか女性研究者なのかということについて、国民的合意が得られないのではないかと。むしろ、どうしても2,700億円減らさなければならないのであれば、鳩山イニシアティブを実現するために環境技術に思い切った資金を投入する。総理の目標として掲げた数字を達成できるよう、すべての資金をそこに最優先で投入することが必要ではないかと思う。

補正予算の最終的な見直しもこの一両日中と伺っているが、ぜひこの点をご配慮いただきたいと思う。

【白石議員】

資料1-1に重点的に推進すべき課題の1つとして、科学技術外交がある。私は、総理が国連で提唱されたCO₂削減は科学技術外交からしても非常に重要なイニシアティブだと考えている。今度、ASEANプラス3、東アジアサミットがある。総理は既に東アジア共同

体構築を非常に重視しておられるが、ぜひその場においても、特にこのグリーンイノベーション等に関連して、例えば東アジア共同体構築の一環としての東アジアリサーチコミュニティのようなものを考えていただければと思う。

かつてと違って、日本だけがアジアでお金を出せる国ではない。中国、韓国、シンガポールもお金を出せるので、一緒になってグローバルな、あるいは地域的な課題に取り組むというのを、ぜひ提唱していただきたい。

実は私、アジア経済研究所の所長もしており、日本のイニシアティブで、今ジャカルタにはASEAN事務局に併設の形でERIA（エコノミック・リサーチ・インスティテュート・フォア・アセアン・アンド・イーストアジア）というものがあるが、ここは本来の任務はアジア版のOECDのようなものになることが期待されていて、今のところまだ経済政策だけに限られているが、科学技術についても研究を行っていく上ではこういうものがポリシーメイキングのベースになり得ると思う。その辺も考えて、科学技術ということで、今度のASEANプラス3等のときにも、何かお願いできればと。

【奥村議員】

25%削減はこの10年間で既存の技術だけでは難しいというのはおっしゃるとおりだと思うが、同時に、2020年という10年先のことを考えると、現在アベイラブルな、いわゆるBAT（ベスト・アベイラブル・テクノロジー）、これはIEAが出しているものであるが、これを使って技術移転することによって、例えば火力発電所等が日本並みの効率であれば年間17億トン、これは日本全体の年間発生量より多い分の削減可能とされている。したがって、鳩山イニシアティブで途上国への技術移転の仕組みというのを詠われているが、これをぜひ中身の濃い、実現しやすく効果の出るような仕組みに作り上げていただくことが重要ではないかと考えている。

【直嶋議員】

グリーンイノベーションを最重点に推進することは結構だと思う。

グリーンイノベーションを推進するということと言うと、やはり研究開発が新しい産業の創出につながる、それが原動力だと思っていて、国の研究においても研究成果の実用化までを視野に入れて進めることが重要であると思っている。

実用化を視野に入れて研究を効果的に進めるためには、産学官の多様な人材を1カ所に結

集することが重要だと思っている。現在我が国の研究者は約71万人いらっしゃるが、そのうち企業等に所属されている方が約48万人強で、産学官の人材の結集は、大変大きな効果を出すと思っている。現在既にATUやアメリカでも同様な傾向が見られると聞いている。

それから、途上国への技術支援も含めて考えると、やはり国際標準化と連携した研究開発の推進が非常に重要なポイントだと思っている。特に我が国の企業は太陽電池等の新しい産業分野において、今、海外の企業としのぎを削っているところで、こういう分野においては迅速にその技術を国際標準化していくことが大変大きな要素になってきていて、この点の重要性を指摘させていただきたい。

【菅議員】

ちょっと私から、先ほど榊原議員が言われたことについて申し上げておく。

先だって、この総合科学技術会議の有識者の皆さんにもお集まりいただいて、あるいはそれ以外の場でもいろいろと2,700億円についてご意見を伺わせていただいた。最終的には補正予算の見直しの中で、まだ最終ではないが、私の責任の下で一定の方向性を示させていただいた。まだ今、最後の見直しが進んでいるので、どの機会にご報告しようかと思っていたが、若干報道には出ている。

簡単に言えば、2,700億円の中で、これは科学技術の立場から言えば、私もフルで使わせていただきたいと思ったが、いろいろな事情から、全体として700億円だけ圧縮をさせていただいた。そして、2,000億円の中の1,000億は皆さん方が決められた30人の中心研究者を中心に、総額は減るがそれでも相当の額なので、それを適切な規模で配分いただくのが適当ではないか、そして、あとの1,000億については、この基準は皆さん方をお願いをしたいが、若手を含む、若手に限るのではなく、あるいは女性に限るのではなく、場合によれば若手で女性で、あるいはテーマも含めて、改めて、基準や考え方をまとめていただき配分していただいたらどうかと。これが、私の下で原案として見直しに出させていただいたところである。

その会議にはおられなかった榊原議員からもその後お手紙をいただき、趣旨は十分に理解しているつもりであるが、私は皆さん方のこれまでの議論やいろいろな経緯を含めて、皆さん方のご意見もそれなりに参酌した中で、これが適当ではないかということで一応、方針を出させていただいた。

今日この場ではこれ以上議論する時間がないので、もし何かあれば別の機会に議論させて

いただきたいと思っている。

【川端議員】

趣旨は全く異議ないが、政府関係の研究開発投資の基準・目安を、欧米の対GDP比を視野に入れてしっかり確保するという過去の経緯も十分踏まえて、総枠の議論を新たにさせていただきたいのと、補正予算の、最先端の開発プログラムと革新的技術推進費が機能的にテーマ的に重なる可能性があるので、慎重にその重複を避ける作業を検討したいと思っている。

【菅議員】

川端議員がおっしゃったことも含め、これは切れ目があるようでないことは皆さんご承知だと思うので、2,700あるいは来年度も予算含め、皆さんのご意見を十分参考にさせていただきたいと思っている。

議論をいろいろいただいたが、本件議案の資源配分の方針及び科学技術振興調整概算要求方針を決定してよろしいか。

【原口議員】

時間がないというのであれば、ペーパーを出させてください。

【菅議員】

一応、この場で決めた中で対応してください。

【原口議員】

わかりました。

【菅議員】

それでは、そういったペーパーを参考にさせていただくことを前提として、本案を決定することとし、総理及び関係大臣に意見具申することとさせていただく。

(報道関係者入室)

【鳩山議長（内閣総理大臣）】

総合科学技術会議において、皆様方のおかげで我が国の科学技術の方向性を常に位置づけていただくことに、心から感謝を申し上げます。

先ほどから、大変有益なお話をいただいたことに、改めて感謝を申し上げます。

私も副総理も官房長官も工学系の人間。こういう内閣は大変珍しいと思う。それだけに私も科学技術には並々ならぬ関心を持ってこれからも臨んでまいりたいことは、まずお約束をする。

先ほど相澤先生からお話があったが、先生が助手をなさっていた頃に私も同じ東工大の助手同士の時期があった。その頃、私も研究をしていたので、自分の身をもって話をするのは必ずしも適当ではないかもしれないが、ややもすると研究者・学者は自分の研究に酔ってしまって、自分の理論を正当化するために、理論のための理論を作って、必ずしも社会での有用性とは別に、理論の正当性ばかり強調する方向に行ってしまう可能性があるのではないか。そうではなくて、やはりこれからの国のあり方や社会を変えるんだとすれば、新たな社会のシステムに合う形で研究を、発展を遂げていくことが我が国にとってふさわしいのではないか、そのために応用研究ばかりしろということではない。むしろそのために必要な基礎研究は大いに必要ではないか、例えば今回グリーンイノベーションということでもいろいろご提言もいただいた。私は国連等で、ある意味産業界の皆さん方にはご面倒をおかけするが、大胆な発言をしたのは、地球に生きとし生けるものにとって必要な方向ではないか、そのために我が国の科学技術力をこれからも大いに推進させるためのチャンスとするべき時ではないか、そのための大胆な提言だにご理解をいただきたい。

グリーンイノベーションをどのようにして作り上げていくかが、大変大きな、この国にとっての発展の道、世界に貢献する道だにご理解いただいて、その方針で今日おまとめいただいたことは、大変ありがたいことだと思っている。

先ほど補正予算に関して、若干の減額ということに対してお気持ちが述べられたが、私もが決して科学技術を粗末にするということではない。本当に重要なところにもっともっと予算をつけていきたいと願っているのも事実であることはご理解いただきながら、今後とも総合科学技術会議の皆様方の方針をしっかりと作りいただく中で、我が国の未来を定めていただければと思っている。

改めて、ご多忙の中お運び下さいました皆様方に心から感謝を申し上げ、私からのお礼を込めたあいさつとしたい。

(報道関係者退室)

【菅議員】

以上で本日の会議を終了します。

なお、前回会議の議事録と本日の資料は公表をさせていただく。